



大切な命と未来のための税金

三年 清船 舞

生理用品を買っているときにふと思いました。なぜ生理用品は無償化されないのだろう。考えてみると、税金で無償化されるべきだと思います。

そこで、私は生理用品が無償化されている国を調べてみました。すると、スコットランド、ニュージーランドその他二つの国で無償化されていることを知りました。その目的としては、「女性が生理による負担をすべて無くすということでした。

では、なぜ日本は生理用品が無償化しないのでしょうか。

それについて調べてみると、市や区では、ところどころ配給していると知りました。しかし、「生理用品を配給していることを知っている」という人は約五割で、「知っているが、恥ずかしくて利用できない」という人は約七割と知りました。それなら、配給をしていることを広告などで広め、生理用品を直接受け取ることが恥ずかしいのなら、配達で家まで届けるなどの工夫が必要だと思います。また、市や区がところどころ配給するのではなく、日本全国が行うべき活動だと思います。しかも、生理用品は安いものではありません。最近では、「生理の貧困」という言葉

が話題となっています。その理由の多くは、「生理用品に使うお金がない」ということです。

生まれる性別は選べません。では、なぜ女性だからといってこの様な負担を負わなければならないのでしょうか。

また、こんな広告をテレビで見ました。それは、「なぜトイレにトイレトペーパーは置いてあるのにナプキンはないのか」という疑問が提示された広告でした。私はその広告を見て、「確かに」と思いました。それと同時に「他の人も疑問に思っている人がいるんだろう」と思いました。

また、その広告を出している会社は、トイレにナプキンを設置する運動を行っています。それを知り、もっとこの様な配慮が必要だと思います。なぜなら、その会社の公式ページで調べてみると、生理で不調のときに「職場での理解が得られない」と感じた人は約四割で、外出時に「一番の困り事は「ナプキンの取り換え」で約六割。また、その対処法は「我慢した」が六割でした。そして、仕事場にナプキンが常備化したら「使いたい」との声が八割でした。だから私は、配慮が必要だと思います。

このように私は、女性が生理による負担を税金で補うことが大切であり、また、女性が安心して使える生理用品を配給することが大切だと思います。